# ユーザー管理

## クイックスタートガイド

バージョン R91

日本語

June 10, 2015

## Agreement

The purchase and use of all Software and Services is subject to the Agreement as defined in Kaseya's "Click-Accept" EULATOS as updated from time to time by Kaseya at http://www.kaseya.com/legal.aspx. If Customer does not agree with the Agreement, please do not install, use or purchase any Software and Services from Kaseya as continued use of the Software or Services indicates Customer's acceptance of the Agreement."

# 目次

# 組織

通常、組織は顧客ですが、組織はビジネスパートナーでもあり得ます。VSA のユーザー定義オブジェクトのほとんどが、組織に属します。管理マシン、管理デバイス、および VSA ユーザーはそれぞれ、組織に属します。それらにはオプションとして、スコープ、チケット、サービスデスクが関連付けられます。

## 組織と管理マシン

管理されるマシンにインストールされたエージェントは、独自の**マシン ID/グループ ID/組織 ID** を指定されています。すべてのマシン ID はマシンのグループ ID に属し、オプションでサブグループ ID に属します。すべてのマシンのグループ ID は組織 ID に属しています。組織は、通常は単一の顧客のアカウントを表します。組織が小さい場合、その組織のすべてのマシン ID を含んでいるマシンのグループが 1 つだけあります。大きな組織の場合は、通常は場所やネットワークで分類される多数のグループおよびサブグループがあります。たとえば、管理マシン上にインストールされたエージェントの完全な識別子は、`jsmith.sales.chicago.acme` として定義できます。この場合、`sales` は、`acme` と呼ばれる組織 ID 内の `chicago` というグループ ID 内にあるサブグループ ID です。VSA の一部の場所では、この階層が逆の順序で表示されます。各組織 ID には、`root` と呼ばれるデフォルトのマシングループ ID が 1 つあります。　グループ ID およびサブグループ ID を作成するには、[システム] > [組織/グループ/部門/スタッフ] > [管理] > [マシングループ]ページを使用します。

## 定義済み組織

3 つの事前定義組織があります：

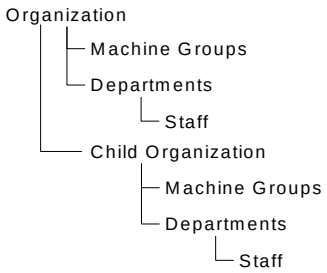
- `myOrg` は、VSA を使用するサービスプロバイダーの組織です。VSA 内のその他すべての組織が、`myOrg` と取引している当事者の組織です。`myOrg` のデフォルト名はマイ組織であり、サービスプロバイダーの社名または組織名と一致するように変更する必要があります。*この名前は、ブランドを示すために各種レポートの上部に表示されます。*内部の管理マシンにインストールしたエージェントは、この組織に割り当てることができます。*VSA ユーザーのログオンは通常*、`myOrg` *組織のスタッフのレコードに関連付けられています。* `myOrg` を親組織に割り当てることはできません。
- `Kserver` は、Kaseya Server にインストールされたエージェントに割り当てられた組織です。これを使用することで、通常は他のエージェントの管理マシンとは別の方法で管理されている専用設定を、Kaseya Server に適用することが簡単になります。
- 名前未設定は、エージェントを割り当てるデフォルトの組織です。 [エージェント] > [エージェントの配置]で、組織ごとに 1 つ、複数のエージェントインストールパッケージを管理するのは時間がかかります。代わりに、一部のサーバープロバイダーは名前未設定の組織に対して単一のエージェントパッケージを使用して、すべてのインストールを実行します。[システム] > [命名ポリシー]を使用して、各管理マシンの IP または接続ゲートウェイに基づいて、初めてエージェントがチェックインしたときに、新しいエージェントを正しい organization.group ID に自動的に割り当てし直すことができます。[エージェント] > [設定のコピー]を後で使用して、マシン ID テンプレートに指定された特定の種類のエージェント設定を、最初の監査で判明したマシンのタイプに手動でコピーできます。

# スコープ

## スコープデータオブジェクト

スコープに割り当てることができるデータオブジェクトには、5つのタイプがあります。それは、スコープに割り当てられる前に、スコープ外で定義されます。

- **組織** - 組織は一般的に顧客ですが、顧客のみとは限りません。組織のレコードは、その名前やアドレス、従業員数やウェブサイトなど、特定の一般情報が含まれます。組織はまた、組織内の全マシングループと個人を示す下の図のように、追加情報の階層を定義します。組織を定義するには、[システム] > [組織/グループ/部門/スタッフ] > [管理]を使用します。




- **マシングループ** - マシングループは組織内にある管理マシンのグループです。マシングループを定義するには、[システム] > [組織/グループ/部門/スタッフ] > [管理] > [マシングループ]を使用します。
- **マシン** - 運営マシンは、エージェントがそこにインストールされているコンピュータの事です。各マシンはマシングループに属さなければなりません。マシンを作成するには、一般的に[エージェント] > [**エージェントの配置**]ページを使用します。
- **部門** - 部門は組織内のスタッフメンバーのグループです。スタッフメンバーはマシンユーザーと同じであるとは限りません。部門とスタッフメンバーを定義するには、[システム] > [組織/グループ/部門/スタッフ] > [管理] > 部門]を使用します。
- **サービスデスク** - サービスデスクは **Service Desk** モジュールを使用してチケットを処理します。サービスデスクを定義するには、[サービスデスク] > [デスクの設定] > [デスクの定義]を使用します。

## スコープ

[**スコープ**]ページでは、VSA全体のユーザー定義データオブジェクトの特定のタイプの*可視性*を定義します。例えば、あるユーザーはマシングループをいくらか見ることができても、それ以外のマシングループを見ることができません。一度、スコープがユーザーにデータオブジェクトを見えるようにすると、そのデータオブジェクト上でそのユーザーが実行できる機能は、ユーザー役割で決まってしまいます。スコープを使用すると、ユーザーセキュリティの責任を持つVSAユーザーは、データオブジェクトの異なるスコープを作成し、異なるユーザーの集団に割り当てることができます。

> **注：** ユーザーは、割り当てられた役割（実行できる機能）と割り当てられたスコープ（表示可能なデータ）の両方をもってログオンします。　役割のメンバーシップとスコープのメンバーシップは、お互い独立しています。

## スコープの指定

データ構造間の親子関係は、どのようにスコープが維持されるかに影響を与えます。

### *暗示指定*

ペアレントレコードのスコープへの指定は*暗示のうちに*全チャイルドレコードを、同じスコープに指定します。例えば、組織をスコープに指定することは、その同じスコープ内で、以下のことを含むことを意味します。

- チャイルド組織
- 組織と、チャイルド組織のマシングループです。
- その組織とチャイルド組織のマシングループのマシンです。
- 組織とチャイルド組織の部署です。

### *明示指定*

スコープ内でトップレベルの組織を含む唯一の方法は、そのスコープに手動で追加することです。なぜなら、それに含むのにペアレントレコードが存在しないからです。これは明示指定と呼ばれています。スコープ内の低レベルのオブジェクトを明示指定できますが*それは、低レベルオブジェクトがそのペアレントを通じてまだスコープに暗示指定されていない場合に限ります。*例えば、マシングループのペアレント組織を加えることなく、マシングループを明示のうちに含むことができます。また、個々のマシンや部署をそれらのペアレントレコードを含むことなく、明示してスコープに含むことができます。

### *スコープのすべて*

**スコープ**機能は、使用可能なとき **[すべてスコープに含む]** ボタンを提供します。.ボタンは、レコードが暗示、明示指定にかかわらず、特定のスコープタブ内にコートを全てリストアップするウインドウを表示します。

# ユーザーの役割

ユーザー役割はどんな機能を *ユーザー*がアクセスできるかを決定します。

## 役割タイプ

Kaseya のライセンスは、役割タイプ毎に購入していただきます。ユーザにライセンスを与える*ユーザー役割タイプ*と、マシンにライセンスを与える *マシン役割タイプ*があります。各役割タイプにより、選択した機能が[ユーザーの役割] > [アクセス権]タブ、および[マシン役割] > [アクセス権]タブにリストされます。購入した役割タイプのライセンスの数は、[システム] > [ライセンスマネージャ] > [役割タイプ]タブに表示されます。各役割タイプライセンスは、許可された*名称が付いたユーザ*と*同時使用ユーザ*数を指定します。

## ユーザー役割タイプ

各ユーザー役割は、少なくとも１つのユーザー役割タイプを指定しなければなりません。ユーザー役割が複数の役割タイプに割り当てられると、役割タイプのどれかがその機能をアクセスできるなら、その機能へのアクセスが可となります。機能アクセスは、ユーザー役割またはマシン役割でさらに制限することができます。ユーザー役割タイプの例として次のものがありますが、それらに限定されません。

- **VSA 管理者** - マスターユーザーと標準ユーザーが含まれます。

- **エンドユーザー** - 選択したVSAの機能への制限付きアクセスを提供します。主にサービスプロバイダーのお客様用です。顧客は VSA にログオンして、レポートの印刷や各自の組織に関するチケットを表示できます。
- **サービスデスク技術者** - **Service Desk** のチケットの編集とレポートの実行ができますが、サービスデスク、サポートテーブル、またはサービスデスク手順を構成することはできません。
- **サービスデスク管理者** - **Service Desk** のすべての機能を使用できます。
- 追加の SaaS ユーザー役割タイプは購入したバンドルで定義され、それぞれ異なります。

# マシン役割

## マシン役割

[**マシン役割**]ページは、[**Portal Access**]ウィンドウへのアクセスを制御します。ポータルアクセスは、マシンユーザーが起動するライブ接続セッションです。運営マシンのシステムトレイ上のエージェントアイコンをクリックすると、マシンユーザーは**ポータルアクセス**ページを表示します。**Portal Access** には、ユーザーの連絡先情報の変更、トラブルチケットの作成または追跡、VSA ユーザーとのチャット、または別のマシンから自分のマシンのリモートコントロールなどのマシンユーザーオプションが含まれます。

> **注：**Portal Access の詳細については、「**Live Connect、Portal Access およびクイックビュー**」『**http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/JA_RCtools_R91.pdf#zoom=70&navpanes=0** を見て』を参照してください。

## マシン役割タイプ

全てのマシン役割が、マシン役割タイプに割り当てられなければなりません。*Kaseya 2 の最初のリリースでは、マシン役割タイプは 1 つしかありませんでした。*マシン役割タイプは、マシン役割に含まれているマシンに適用する *マシンベースのライセンス*を決定します。たとえば、`StdMach` というマシン役割を作成して `StdMach` を `Basic Machine` というマシン役割タイプに割り当てると、`StdMach` マシン役割のマシンが 150 台ある場合、[システム] > [ライセンスマネージャ]には、使用している `Basic Machine` のライセンス合計数が 150 と表示されます。

# ユーザー

各ユーザーは、少なくとも役割を 1 つと、スコープを 1 つ割り当てられていなければなりません。1 人のユーザーに複数の役割とスコープを指定できますが、*いつも、1 つの役割と 1 つのスコープだけが作動します。*.アクティブ役割とスコープは、ページの右上の**役割**と**スコープ**ドロップダウンリストで選択します。それぞれの機能にアクセスすれば、ユーザーパスワード、ユーザーログオンの可/不可、ログオフユーザーをリセットできます。

## マスターユーザーと標準ユーザーの違い

マスターユーザーとは、マスターユーザー役割と、マスタースコープを使用する VSA ユーザーです。 マスターユーザー役割をもつユーザーは、VSA のすべての機能にアクセスできます。マスタースコープでは、VSA のすべてのスコープデータオブジェクトにアクセスできます。マスターユーザー役割は非マスタースコープと共に使用できますが、マスタースコープを非マスター役割と共に使用することはできません。Kaseya Server の管理構成と他の専用機能は、マスター役割ユーザーのみが

実行できます。*標準ユーザー*という用語は、マスターユーザー役割およびマスタースコープを使用しないユーザーを示すために使用されることがあります。

# 新しいマスターユーザーの作成

## ユーザーパスワードを忘れた

マスターユーザーのパスワードを忘れた場合は、システムが提供する新しいマスターユーザーのアカウントを作成する方法を利用するか、単に既存のマスターユーザーのアカウントのパスワードをリセットしてください。こうすることで、システムにログインできるようになり、忘れたアカウント情報を取得できます。マスターユーザーとは、マスターユーザー役割と、マスタースコープを使用する VSA ユーザーです。

**注：**この操作には、Kaseya Server の管理者権限が必要です。セキュリティの理由で、以下の手順はリモートでは実行できません。

## 新しいマスターユーザーのアカウントの作成

1. Kaseya Server を実行しているマシンにログインします。
2. 次のウェブページにアクセスします。
   `http://localhost/LocalAuth/setAccount.asp`
3. **マスターユーザー名**フィールドに新しいアカウント名を入力します。
4. パスワードを**パスワード入力**フィールドに入力し、**パスワード確認**フィールドに再度入力して確認します。
5. **E メールアドレス**に E メールアドレスを入力します。
6. **作成**をクリックします。

これで、新しいマスターユーザーのアカウントでシステムにログオンできます。

## 既存のマスターユーザーのアカウントのパスワードのリセット

**注：** マスターユーザーのアカウントを無効にすることはできません。

1. Kaseya Server を実行しているマシンにログインします。
2. 次のウェブページにアクセスします。
   `http://localhost/LocalAuth/setAccount.asp`
3. 既存の、有効なマスターアカウントのユーザー名を**マスターユーザー名**フィールドに入力します。
4. パスワードを**パスワード入力**フィールドに入力し、**パスワード確認**フィールドに再度入力して確認します。
5. **E メールアドレス**は省略します。このウェブページでは、既存のユーザーの E メールアドレスをリセットできません。
6. **作成**をクリックします。

これで、既存のマスターユーザーのアカウントでシステムにログオンできます。

# ユーザ所有オブジェクトを共有

各ユーザは、フィルタをかけたビュー、レポート、手順、モニターセットなど、ユーザー所有オブジェクトを作成する能力があります。通常は、これらのオブジェクトはプライベートオブジェクトとして開始します。プライベートオブジェクトは、ほかのユーザーは見ることも使用することもできません。これらのユーザー所有オブジェクトは、他の*ユーザー役割*または個人*ユーザー*で共有することができます。場合によっては、マスター役割ユーザーはすべてのユーザーに公開されるユーザー定義オブジェクトを作成できます。共有オプションは、オブジェクトを使用する、編集する、エクスポートする、または追加ユーザーと共有する権利が含まれます。共有権は個々ののオブジェクトでそれぞれセットします。ユーザー所有オブジェクトの共有を選択できます：

- そのユーザー役割を現在使う、使わないにかかわらず、どのユーザー役割でもあなたはそれのメンバーなのです。
- 個人のユーザーは、あなたの現在のスコープのメンバーです。

オブジェクトに対する共有権がユーザー役割と個人役割の両方に与えられていると、共有権がお互いに追加されます。

通常、**[共有]** ボタンは、ユーザー所有オブジェクトを編集するページまたはダイアログに現れます。個人**[共有]** ボタンは、リスト内の各ユーザー所有オブジェクトの隣にあることもあります。

VSA でのユーザー所有オブジェクトの例を示します。

- ビューの定義
- エージェントインストールパッケージの配置
- ダッシュレットをモニターする
- エージェント手順フォルダ
- サービスデスク手順フォルダ
- モニターセットフォルダ
- SNMP セットフォルダ
- レポートフォルダ
- レポートセットフォルダ
- **Service Desk** チケットのフィルター

> **注：** フォルダツリーには、フォルダの共有に関する特殊なルールがあります。詳細については、オンラインユーザーアシスタンスの[エージェント手順] > [スケジュール/作成] > [フォルダ権利]を参照してください。

## 共有オプション

- **共有ペーン**にユーザーまたはユーザー役割を加えるとそのオブジェクトをユーザーが使用できます。そのオブジェクトを使用するために、追加の権限をユーザーまたはユーザー役割に割り当てる必要はありません。
- ユーザーまたはユーザー役割を*追加*するときに、**編集**、**作成**、**削除**、**名前の変更**、**共有**などの*追加の権限*をチェックすると、そのユーザーまたはユーザー役割にそれらの追加の権限が指定されます。ユーザーの追加権利を変更するには、それら、またはユーザー役割を一旦外し、その後、元にもどさなければなりません。
- **共有**はユーザーまたはユーザー役割が共有権を指定できることを意味します。

### *レガシー共有オプション*

内の特定の機能は、以下のようにレガシ—ダイアログを使て共有権を設定します。

- 共有権は*オブジェクトごと*に割り当てられます。3 つの共有チェックボックスのオプションがあります：最初の 2 つのチェックボックスは、*相互に排他的*であり、どのような共有権が割り当てられるかを決定します。最初の 2 つのチェックボックスのどちらもチェックされていないなら、共有アクセスを付与されているユーザーだけには共有オブジェクトが表示されますが、オブジェクトは使用も編集もできません。**共有**および**非共有**のリストボックスと三番目のチェックボックスが、誰がオブジェクトを*見る*ことができるかを決定します。
  - **他の管理者に変更を許可**- チェックすると、オブジェクトへの共有権を持つと、そのオブジェクトを使用、詳細を表示、および編集できます。
  - **他の管理者は使用できるが、表示または編集はできない** - チェックすると、オブジェクトへの共有権では使用だけが可能です。
  - **公開する***（すべての管理者が表示可能）* - チェックした場合、現在および将来の*すべて*の VSA ユーザーがオブジェクトを*表示*できます。空白の場合は、選択したユーザー役割およびユーザーだけが共有オブジェクトを見ることができます。空白で、新しいユーザーまたはユーザー役割が後から追加された場合、このダイアログに戻って特定のオブジェクト見ることができるようにする必要があります。

# VSA ログオンポリシー

[システム] > [ユーザーセキュリティ]で VSA ユーザーが定義されると、ユーザーがログオン可能な時期とその方法、およびログオン中にユーザーが利用可能な機能を、多数の機能が管理します。

VSA ユーザーのログインオプションを指定するには、次の項目を使用します。

- [システム] > [ユーザー] - ユーザーのパスワードをリセットする、ユーザーにパスワード変更を強制する、ユーザーのログオンを有効/無効にする、ユーザーをログオフする、のオプションがあります。
- [システム] > **[プリファレンス]** 『8 ページ 』 - **プリファレンス**のページは、通常、*現在ログインしている*ユーザーのみに適用するパーフォーマンスオプションを設定します。
- [システム] > **[ログオンの変更]** 『9 ページ 』 - [**ログオンの変更**]ページでは、自分の VSA ログオンのユーザー名とパスワードを設定します。これらのプリファレンスオプションは*現在ログオンしている*ユーザーのみに適用されます。
- [システム] > **[ログオンポリシー]**『10 ページ 』- [**ログオンポリシー**]ページでは、すべての VSA ユーザーに適用するログオンポリシーを設定します。
- [システム] > **[ログオン時間]** 『11 ページ 』 - [**ログオン時間**]ページでは、各ユーザー役割に曜日と時間を指定して*いつ*ユーザーが VSA にログオンできるかを決定します。週の各曜日に、違う時間を設定できます。
- [システム] > [サイトのカスタマイズ] > [ログオンページ] - ログオンページに表示されるオプションを設定します。
- [システム] > [サイトのカスタマイズ] > [サイトヘッダー] - ログオンページに表示されるオプションを設定します。

**注：** *マシンユーザー専用*の追加のログオンオプションは、[エージェント] > [Portal Access]で設定します。

# プリファレンス

[システム] > [ユーザー設定] > [プリファレンス]

**プリファレンス**ページで、*現在ログオンしている*ユーザーのみに適用するシステム規模のプリファレンスを設定します。これには警報メッセージを受け取る E メールアドレスが含まれます。

> **注：**このページの 3 つのオプションがすべてのユーザーに適用され、マスター役割ユーザーにのみ表示されます。言語パックをインストールするための**システムデフォルト言語プリファレンス**と**[ダウンロード]**ボタンを設定し、**全ユーザーに共有フォルダと個人フォルダー内容を表示**します。
>
> **注：** ユーザーログオンに影響を与える機能のサマリーについては、「**VSA のログオンポリシー**」 『7 ページ 』を参照してください。

## この管理者のメッセージを配信する E メールアドレスを設定する。

警報、チケット通知、その他のＥメールメッセージを送るＥメールアドレスを指定します。Ｅメールアドレスを入力してから、それを有効にするために **適用** をクリックします。以前に設定した警報は、警報を設定した時に指定した元の E メール受信者アドレスに保存されます。

## ログオン後の最初の機能を設定する。

Kaseya Server にログオンしたときに、最初に表示する機能の名前を選択します。

## 情報アイコンにカーソルを置いたときに、詳細情報を表示するまでの遅延を設定する

[チケット発行] > [サマリーの表示]、および[サービスデスク] > **[チケット]** 『**http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KSD/9010000/index.asp#3646.htm** を見て 』の各チケット行に、情報アイコンが表示されます。アイコンにカーソルを合わせると、チケットのプレビューが表示されます。チケットプレビューウィンドウが表示されるまでの待機時間 *（単位: ms）*を指定し、[**適用する**]ボタンをクリックします。**[デフォルト]** ボタンをクリックして、この値をデフォルトに戻します。

## エージェントのアイコンにカーソルを置いたときに、詳細情報を表示するまでの遅延を設定する

エージェントのチェックインアイコン（例: ）は、VSA の各マシン ID アカウントの横に表示されます。アイコンの上にカーソルを置くと、エージェントのクイックビューウィンドウが表示されます。エージェントのクイックビューウィンドウが表示されるまでの待機時間（単位: ms）を指定し、[**適用する**]ボタンをクリックします。**[デフォルト]** ボタンをクリックして、この値をデフォルトに戻します。

## タイムゾーンのオフセットを選択する。

以下のタイムゾーンのオフセットのどれかを選択し、**適用**をクリックします。「スケジュールとサマータイム」を参照してください。

- **ブラウザがシステムにログインする使用タイムゾーン**
- **VSA サーバーのタイムゾーンを使用する** - VSA ブラウザにより表示される現在の時刻がこのオプションの横に表示されます。
- **VSA サーバーからの固定オフセット<N>時間を使用する**

> **注：** 日付フォーマットは、[システム] > [構成]で設定します。

### 言語のプリファレンスを設定する。

- **マイ言語のプリファレンスは** - VSA にログインしたときの表示言語を選択します。利用可能な言語は、インストールしている言語パッケージによって異なります。
- **システムのデフォルト言語のプリファレンスは** - すべてのユーザーの VSA ユーザーインターフェースに使用するデフォルトの言語を選択します。利用可能な言語は、インストールしている言語パッケージによって異なります。このオプションは、マスター役割ユーザーだけを表示します。
- **言語パッケージのダウンロード** - 言語パッケージをダウンロードしてインストールできるダイアログボックスが表示されます。言語パッケージをインストールすると、VSA ユーザーインターフェースをその言語で表示できます。このオプションは、マスター役割ユーザーだけを表示します。

### すべてのユーザーの共有フォルダおよび個人用フォルダの内容を表示する - マスター管理者のみ

これをチェックすると、マスター役割ユーザーが、共有フォルダと個人フォルダを見ることができます。個人ホルダーだけは、このボックスをチェックすれば、マスター役ユーザーがオーナーと同じく、全アクセス権を得ることになります。

### 長い名前に対する表示フォーマットを選択する。

ウェブページは、代表的な文字列サイズに表示するようデザインされています。時には、データフィールドが長い名前を持っていて、ウェブページ上に適切に表示されないことがあります。以下の方法で長い名前表示を指定できます：

- **ページレイアウトをよくするために名前を制限する** - この設定はウェブページ上で文字列のサイズを制限します。最大長を超える文字列は以下で制限されます、、名前全体を見るには、マウスを文字列の上に移動し、ツールティップで全体を表示してください。
- **長い名前を複数行に表示** - 長い文字列がウェブページ内で改行して表示されます。これは通常のウェブページのレイアウト上で邪魔になり、名前が単語の途中で改行されてしまいます。

### スヌーズをクリア

**スヌーズをクリア** をクリックして現在の残っているタスク通知メッセージをクリアします。あなたに割り当てられたタスクと期限切れのタスクに、タスク通知メッセージが作成されます。タスクを定義するには、[情報センター] > [ダッシュボードの表示]ページを使用します。

### デフォルト

**デフォルト**をクリックして、このユーザーのシステムに対する全設定をデフォルトにリセットします。

# ログオンの変更

[システム] > [ユーザー設定] > [ログオンの変更]

[**ログオンの変更**]ページでは、自分の VSA ログオンのユーザー名とパスワードを設定します。これらのプリファレンスオプションは*現在ログオンしている*ユーザーのみに適用されます。

> **注：** ユーザーログオンに影響を与える機能のサマリーについては、「**VSA のログオンポリシー**」 『7 ページ 』を参照してください。

### 各自の VSA のログオン名またはパスワードの変更

ログオン名とパスワードの変更するには：

1. 新しい名前を**ユーザー名**フィールドに入力します。

   **注：** **[システム] > [ログオンポリシー]**の**[ログオンの変更を禁止する]**がチェックされている場合、**[ユーザー名]**フィールドを編集することはできません。

2. 古いパスワードを**古いパスワード**フィールドに入力します。
3. **新しいパスワード**を新しいパスワードフィールドに入力しますパスワードは大文字と小文字を区別します。

   システムで強力なパスワードを自動生成するには、[**推奨**]をクリックします。ダイアログボックスは新しいパスワードを表示します； 新しいパスワードは自動的に**新しいパスワード**と**パスワード確認**フィールドに入ります。OK をクリックする前に書き込んだか確認し、ダイアログボックスを閉じます。
4. **パスワード確認**フィールドに再度入力してパスワードを確認します。
5. **セキュリティ質問** と **セキュリティ答え**を入力します。これにより、パスワードを忘れた場合に新しいパスワードを要求できます。

   ログオンページの[**パスワードを忘れた場合**]リンクをクリックすると *([システム] > [サイトのカスタマイズ] > [ログオンページ]タブでアクティブにした場合)*、パスワードを変更できるリンクの E メールが届きます。パスワードを変更するには、[システム] > **[ログオンの変更]** 『9 ページ 』で[**セキュリティの質問**]と[**セキュリティの回答**]をあらかじめ入力しておく必要があります。
6. **変更**をクリックします。

**注：** **Discovery** アドオンモジュールでは、**ドメインログオン** 『**http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KDIS/9010000/index.asp#7293.htm** を見て 』を使用して *VSA* ユーザーのログオンと *Portal Access* のログオンを管理できます。

# ログオンポリシー

[システム] > [サーバー管理] > [ログオンポリシー]

[**ログオンポリシー**]ページでは、すべての VSA ユーザーに適用するログオンポリシーを設定します。ログオンポリシーはシステムへの強行割り込みを防ぎます。連続する不正ログインや不正アカウントを設定時間制限するために、繰り返しランダムにパスワードを入力による不正アクセスを防ぐことができます。

**注：** ユーザーログオンに影響を与える機能のサマリーについては、**「VSA のログオンポリシー」** 『7 ページ 』を参照してください。

### 不正ログオンポリシーを指定する。

- **アカウントが無効になるまでの、連続的なログオン失敗の回数** - VSA ユーザーや Portal Access ユーザーがアカウントフィールドに間違ったログオン情報を連続して入力できる回数を指定します。この回数を超えると、アカウントが無効になります。この回数は、ログインに成功するとゼロにリセットされます。
- **最大ログイン不良を超えてからアカウントをオフにするまでの時間**- フィールド内でアカウントが使えなくなる期間を時または日で指定します。

> **注：** ロックアウト時間が経過する前に手動でアカウントをアクティブにするには、別のユーザーが[システム] > [ユーザー]ページでアカウントを有効にする必要があります。

- **ユーザーセッションが自動的にログアウトする前の不作動の時間**- ユーザーが自動でログアウトするまでのユーザー不作動の期間を指定します。フィールドに不作動の時間数を設定します。
- **ログオン名の変更を防ぐ** - ログオン名の変更を防ぎます。
- **ログオンページ上にドメインを表示しない** - ログオンページ上の**ドメイン**フィールドを非表示にします。

> **注：**空白のままにした場合、ドメインログインが少なくとも 1 つ存在するようになるまで、ドメインのチェックボックスがログオンページに表示されません。ドメインログオンをインポートするには、[エージェント] > [AD ユーザーの表示]を使用します。手動でドメインログオンを追加するには、[システム] > **[ログオンの変更]** 『9 ページ 』を使用します。

- **ログオンページ上に覚えておくを表示しない** - ログオンページ上の**自分のユーザー名をこのコンピュータに覚えておく**チェックボックスを非表示にします。

### パスワード強化ポリシーを指定する。

以下の横にあるボックスをチェックすると、パスワード強化ポリシーを指定します：

- **N 日ごとにパスワード変更を要求する**
- **最少パスワード長を強制する**
- **N パスワードのパスワード再利用を禁止する**
- **大文字と小文字のアルファベット文字を要求する**
- **アルファベット文字と数字の両方を要求する**
- **非アルファベット文字を要求する**

### アップデート

**[アップデート]** ボタンを押して変更を適用します。

# ログオン時間

[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [ログオン時間]

[**ログオン時間**]ページでは、各ユーザー役割に曜日と時間を指定して*い*つユーザーが VSA にログオンできるかを決定します。週の各曜日に、違う時間を設定できます。

> **注：** ユーザーログオンに影響を与える機能のサマリーについては、**「VSA のログオンポリシー」** 『7 ページ 』を参照してください。

### ユーザー役割を選択

ユーザー役割を選択して、ログオン時間設定を表示し、メンテナンスします。

### 時間制限なし

チェックした場合、曜日や時刻には関係なく、ユーザーは VSA にログオンできます。他の全設定をオンのするためにチェックを外します。

### 拒否する

全曜日でログオンアクセスを拒否します。

### または<12:00 am>から<12:00 am>まで許可する

ログオンを許可する時間帯を指定します。すべての時刻に Kaseya Server のタイムゾーンが適用されます。一日中アクセスするように設定するには、開始時間と終了時間を同じ時間に設定します。

# ログオンページ

**サイトカスタム化**ページの**ログオンページ**タブで、ユーザーがログオンした時に表示されるオプションを設定します。

> **注：** ユーザーログオンに影響を与える機能のサマリーについては、**「VSA のログオンポリシー」** 『7 ページ 』を参照してください。

1. **ログオンページ**タブ上の**[編集]**ボタンをクリックします。**ログオンページの編集**ダイアログが表示されます。
2. 以下の設定はオプションです。
   - **ログオンページのロゴ** - 設置マシンまたはネットワーク上のカスタムログオンを選択するために検索します。

     > **注：** ロゴは推奨サイズ以下にする必要があります。

   - **タイトル** - この環境のタイトルテキストを入力します。タイトルはログオンページのロゴのすぐ下に表示されます。
   - **右のフレームの URL** - カスタムウェブページのパスを入力します。パスは、`Webpages` ディレクトリまたは `Webpages\Access` ディレクトリの相対パス、または完全修飾の URL でなければなりません。
   - **ログオンページのシステムバージョンを表示** - これをチェックすると、システムバージョンが表示されます。
   - **ログオンページの忘れたパスワードを表示** - これをチェックすると、**パスワードを忘れましたか?**のハイパーリンクがログオンページに表示されます。ログオンページの**[パスワードを忘れた場合]**リンクをクリックすると *（[システム] > [サイトのカスタマイズ] > [ログオンページ]タブでアクティブにした場合）*、パスワードを変更できるリンクの E メールが届きます。パスワードを変更するには、[システム] > **[ログオンの変更]** 『9 ページ 』で**[セキュリティの質問]**と**[セキュリティの回答]**をあらかじめ入力しておく必要があります。
   - **ログオンページのシステムステータスを表示** - これをチェックすると、システムステータスがログオンページに表示されます。
   - **ログオンページのシ顧客 ID を表示** - これをチェックすると、顧客 ID がログオンページに表示されます。

# システムとユーザーログ

**システム** モジュール内の 3 つのログが、ユーザーが行ったイベントとシステムイベントを追跡します。

- **ユーザー履歴** - ユーザーが使用した全機能の履歴を日付順に表示します。この履歴は、選択されたユーザーが行い、システムログ が捕えたアクションも表示します。このシステムは、**システムログ**に指定された日数分の各ユーザーの履歴データを保存します。
- **システムログ** - [**システムログ**]ページは、特定の期間での、マシン ID で追跡することができないイベントを記録します。*このログは、エージェントログのどれにも含まれないイベントを記録します。*
- **アプリケーションロギング** - アプリケーションサーバー上のアプリケーションアクティビティの記録をコントロールします。 この機能は、マスター役割ユーザーにのみ表示されます。

# もっと学ぶ

**Virtual System Administrator™**の実装をすぐに開始できるように、PDF が用意されています。これらの PDF は、**VSA オンラインヘルプの最初のトピック** 『**http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000** を見て 』からダウンロードできます。

**Virtual System Administrator™**に慣れていない場合は、次のクイックスタートガイドを使用することが推奨されます。

1. 開始する
2. ユーザー管理
3. エージェント構成と配置
4. リモートコントロールツール
5. モニタリング構成
6. カスタム・レポート

以下のリソースも利用可能です。

## Kaseya University

研修オプションについては、**Kaseya University** 『**http://university.kaseya.com** を見て 』を参照してください。

# インデックス